

審査の結果の要旨

氏 名 熊谷 亮平

提出された学位請求論文「バルコニーを中心に見た都市居住空間の形成過程ーバルセロナ旧市街と拡張地区を対象にー」は、バルセロナを例にとり、バルコニーの成立と変遷の過程を明らかにすると同時に、バルコニーという対象を通して西欧の歴史的都市住宅の形成過程を多角的に明らかにした論文であり、全6章からなっている。

第1章では、研究の背景、目的、既往の関連研究の成果、更に研究対象地区選定の理由等を明らかにしている。具体的には、これまでの西欧の歴史的都市を対象とした研究においてはバルコニーを包括的にまとめた研究資料が非常に少ないことを指摘した上で、バルコニーが都市居住空間を構成する各種の側面と少しずつ関わっているため、バルコニーを中心に据え、歴史的な都市・建築が立脚している各時代の住宅形式や構法技術の積み重なりを理解することを通して、現代において歴史的環境をより深く理解し、適切に介入してゆくことができるという認識を述べ、バルコニーという対象自身の変遷を明らかにし、バルコニーという対象を通して西欧の歴史的都市住宅の形成過程を多角的に明らかにすることを研究の目的としている。

第2章「西欧都市住居におけるバルコニー概説」では、西欧都市全体を視野に置きながら伝統的なバルコニーについて概説している。具体的には、バルコニーは古代ローマ時代の集合住宅に存在していたが撤去され中世には失われたこと、その後ルネサンス期のフィレンツェやヴェネツィアでバルコニーが出現する萌芽が見られ、スペインのいくつかの都市において16世紀にバルコニーが都市に現れていることを明らかにすると同時に、アムステルダムなどバルコニーを伝統的に持たない都市のいくつかを例示している。また、都市の祝祭行事などを眺める用途など、バルコニーの機能的役割について例示し考察を加えている。

第3章「邸宅ファサードの様式から見たバルコニーの出現過程」では、バルセロナを含むカタルーニャ地方の邸宅ファサードの変遷を調査することにより、14世紀から19世紀までの開口部の変化を明らかにしている。具体的には、防御的性格を備えたゴシック時代のアーチ形の連窓が時代を経るにつれ開口部を拡大し、矩形の窓に変化していったこと、16世紀には掃き出し窓が現れ、18世紀

にはバルコニーは既にファサードの美的構成要素になっていたこと、そして最終的に、バルコニーが17世紀に既存の邸宅開口部に付加する形式で現れ都市の様相を変化させたことを明らかにしている。

第4章「バルコニーの出現と変容：旧市街都市住宅の発展から」では17世紀から19世紀前半までの旧市街の形成におけるバルコニーの変遷を、豊富な史料調査に基づき、住宅形式、構法、法規などの面から多角的に明らかにしている。具体的には、既存窓のバルコニー付き開口部への変更改修が17世紀を通じて増加し続け、都心部の様相を一変させたこと、18世紀には、特定地区における偏った高密度化によって街路上に張り出した突出増築が増加したこと、またその極度の増加による交通・衛生環境の悪化に対応するために策定された突出部の長さを規定する法律が、19世紀までバルコニーの突出長さを決定する基礎になったこと等を明らかにしている。更に、19世紀に関しては、バルコニーに統一的なファサードを構成する外形要素としての位置づけが与えられ、突出長さだけでなく幅や形状、材料が規制されるようになったこと、そしてそれが今日の旧市街の都市景観形成に大きな影響を及ぼしていること等を明らかにしている。

第5章「拡張地区中庭におけるガレリアの形成」では、1859年以降の拡張地区を対象に、街区中庭に面した屋内または屋外空間であるガレリアの出現過程とその特徴について、街区形態・住宅平面の変化、新しい技術・材料の影響、法規の影響を軸に明らかにしている。具体的には、当初サービス空間として便所やなどが配されたガレリアが、光庭の導入に伴って特定の機能を持たない余剰空間になっていった過程を新たに指摘すると同時に、それらが鋳鉄柱、鋼製梁、カタルーニャ・ヴォールトといった新しい材料と構造技術を用いることで、新しいファサードを形成するに到ったことを指摘している。

第6章「結論」では、前5章で新たに得られた知見に基づき、明らかになったバルセロナにおけるバルコニーの変容と定着の過程、そしてそれらと都市居住空間の変化との関係を整理し、本論文の結論としている。

以上、本論文は、豊富な文献調査及び現地調査を通じて、西欧都市、殊にバルセロナのバルコニーの成立と変遷の過程を具体的かつ詳細に明らかにした論文であり、建築学の発展に寄与するところが大きい。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。

「審査の結果の要旨」の概要

- | | | | |
|-----------------|---|------------|---------------------------------|
| 1. 課程・論文博士の別 | 課程博士 | | |
| 2. 申請者氏名 (ふりがな) | 熊谷 亮平 (くまがい りょうへい) | | |
| 3. 学位の種類 | 博士 (工学) | | |
| 4. 学位記番号 | 博工第 号 | | |
| 5. 学位授与年月日 | 平成 年 月 日 | | |
| 6. 論文題目 | バルコニーを中心に見た都市居住空間の形成過程ーバルセロナ旧市街と拡張地区を対象にー | | |
| 7. 審査委員会委員 | (主査) 東京大学 | 教授 | 松村秀一 |
| | | 教授 | 岸田省吾 |
| | | 教授 | 伊藤毅 |
| | | 准教授 | 腰原幹雄 |
| | | 准教授 | 藤田香織 |
| 8. 提出ファイルの仕様等 | 提出ファイル名 | 使用アプリケーション | OS |
| | 使用文書ファイル | 熊谷学位論文.doc | word2000 win98 |

最終試験の結果の要旨

論文提出者氏名 熊谷亮平

審査委員会は、平成 20 年 1 月 15 日に論文提出者に対し、学位請求論文の内容及び専攻分野に関する学術について口頭による試験を行った結果、本人は博士（工学）の学位を受けるに十分な学識と研究を指導する能力を有するものと認め、合格と判定した。

審 査 委 員 会 報 告 書 [課程博士用]

※報告番号	甲 第 号	※授与年月日	平成 年 月 日
※学位記番号	博 工 第 号	研究科名	工 学 系 研 究 科
学位の種類	博 士 (工 学)	専 攻 名	建 築 学 専 攻
ふりがな	くまがい りょうへい	生年月日	1976年12月3日生
氏 名	熊谷 亮平	国 籍	日本
論文題目	バルコニーを中心に見た都市居住空間の形成過程ーバルセロナ旧市街と拡張地区を対象にー		
主論文の冊数	1 冊		
審 査 委 員 会 委 員	(職 名)	(氏 名)	(印)
	主査 東京大学 教授	松村秀一	
	教授	岸田省吾	
	教授	伊藤毅	
	准教授	腰原幹雄	
	准教授	藤田香織	
論文の内容の要旨	別紙 1		
審査の結果の要旨	別紙 2		
最終試験の結果の要旨	別紙 3		
審 査 委 員 会 の 意 見	審査の結果、博士（工学）の学位を授与できると認める。		

※報告番号は、事務局（学務課）において記入する。

※学位記番号、授与年月日は、研究科委員会の審議後研究科において記入する。